

日滿聯合軍

破竹の勢で進撃

【東京廿五日發】熱河匪賊討伐

に關し關東軍司令官武蔵大將は廿五日慶明書を發表したが、陸軍省でも同日左の通り公表

一、滿洲國政府は其の國軍をして

河蟹の肅正を圖行する事とな

る旨告げり。本日熱河總攻撃を開始

し支那正規軍及偽軍を國境即

長城外へ駆逐せんとして、義

ニ支那別動隊及び偽軍の或

者劉桂堂軍の如く、滿洲軍に

降服願ひを以て、支那軍の

開始前南京政府、學良外北平官

憲死廿四時間、支那軍は蒙

源を一舉に陥れ而方支那大

軍を蹴散せんと準備中

都市の空襲を加へ、支那軍の

出走に敗走し日本軍は午後凌

飛行機北平其他前線の諸

軍も亦被へたので、廿五日を

以上との戰闘で敵軍朝陽周囲の

既設陣地を利用抵抗する事

を断念し、午前十一時朝陽市

に潰走した。我軍は午後二時

凌源市近の敵騎兵に爆撃を加

へ多大の損害を與へた結果

を投下し堵船の保健に万全を

期しつゝある。余除此機會に

二、我軍は北票鐵道の補修工事

を既に完成し列車を運行

一、部隊の爲め飛行機より防寒具

を投下して赤峰に向去走した

【新京廿七日發】日本軍司令部

六日夜下轟入城、廿七日早朝

一直線に白塔子に向け進撃を開

始前十時に敵先頭は白塔子前

面に進出した。而我が一機の探

索機は北票鐵道の補修工事

を既に完成し列車を運行

一、部隊の爲め飛行機より防寒具

を投下して赤峰に向去走した

【北票廿四日發】第一百九十九、百

三十、百十六の四個

師團朝陽から凌河の各地を買き

半永久的に堅固な陣地を築造日

本軍の一擊の下に撃退すると鼻

息頗る荒く、多方面の正規軍も

廿三日から敵對行動を開始し來

二十九、百三十、百十六の四個

師團朝陽から凌河の各地を買き

聯盟の行爲は越權

日本代表部の聲明書

〔セネバ二十一日發〕日本代表は、**日露戰爭報告書草案案に對する日本の主張**を、**各主張國代表へ手交すると共に、廿一日午後六時之と一般に公表**して、其内容は左の通り。

一、日本代表部は報告書草案案に對し同意し得ざることを發見せらるを遺憾とす、右報告書草案案中 化日本が事實の叙述と異做

これを以て超國家的機關組織とした判決文と考へるのは、である。即ち、當告を認諾する者は、一つの聯盟に連帯するのみならず當事國がするに應ぜぬ場合にも、聯盟は強制手段である。

に訴へるものではあるが、國に對する侮辱たりとするものと論するは當を得ない。而して和協が不成立に終る迄、然に踏むべき手續である。この内容が極東平和の維持を目的とする帝國政府の見解と相成るものなるが故に、帝國政府の所思を開陳してその實態とく事が聯盟國としての義務である。

と論じてゐる

軍縮代表部 依然壽府に 留る

【〔モハ二十四日發〕東京により、外務陸海軍三大下三省官「外部協議の結果」現に日本に在る軍縮代表部が、國代表部は日本の聯盟代表と離れて、其権限を留め、國代表と共に會議の進行力することに決せる模様。

判決は當然であるが、この事件は、日本政府の主張する如きは、必ずしも得する幾多の點があつた。告はるに、其調査非聯盟國にせよ、もとより日本政府は既に調査の報告書に干渉を提進しし、現在の日支紛争を東支那海に及ぼすもので、現在の中央政府が存在したことによるもので、一九三九年九月十八日事件前より東支那海に於ける支那國民と民國の排日運動による挑發的である。

即座に拒否 勸告書 我態度
【去二十一日當地總領事館によれば、半日正午内田外相達代表部室で訓電を發した。】
「外務省公報によれば、半日正午内田外相達代表部室で訓電を發した。
一、勸告案を探査せば聯明と開闢で決定する。
一、聯席總會で報喜書審査権を絶対反体を宣明する。
一、票決に際し今般は聯明議に不参加を宜明する。
一、報喜書に對し五項に據述を即時提出する。
一、報告書受諾完成せば即ちノリヤ經由歸朝し、佐藤、各代表は任地に歸任せよ。
一、正式脱退延決定第8回に通告す。
一、脫退告發日支問題の會議に眞参加せざるも眞誠に據敷二年は依然参加する。
同の各少壯代議士は純粹的政治的策謀に關係なき政事に立脚し憲政史上の維新運動が下に激動電報を打ち聯盟事務と否かに存する。何等誤り決議文を打電し次いで大會に移り最後に聖上万歳を奉戴會した。

右報　在モ　略に對する安全保證を
以て日本の權益を確保
一、洲國が建國以來積
り成る敵對分子も殆ど
定され確かに熱河事件に
動を繼續する狀態とな
一、學良は最近熱河省境に
内に軍隊を集結してゐ
本は滿洲國との條約にて
大會廿一日午后二時日本
會堂に開催され、全加入員
各先づ君が代合唱次第宣誓
を可決し、實行委員は首相

危し「水」

此點に關しては去
に通告した
一、報告書宣満洲の
に屬すと見てをも
本の見解と相容れ
軍の撤收を勧告し
點に關しては一九
十日の提議案採用
てある。若し日本
が公認せねばならぬ
唱へるものが漸く多く
た、庶民内閣は聯盟開
始始め
中心として兎角閣内
省五千
音告書宣満洲の
に屬すと見てをも
本の見解と相容れ
軍の撤收を勧告し
點に關しては一九
十日の提議案採用
てある。若し日本
が公認せねばならぬ
唱へるものが漸く多く
た、庶民内閣は聯盟開
始始め
中心として兎角閣内
省五千

すであらう
月廿日聯盟
主權は支那
がそれ端日
ない、日本
てをるが此
三一年十月
當り宣旨し
軍が撤収
めとの説を
く取つて來
選退問題を
の統一を要
である
會の支持源を超然内閣
所謂強力内閣説があつ
て或到底閣内統一
の危機に當り得ない
である

貿易の現状と問題点を総括する
本稿は、主に貿易の現状と問題点を総括するものである。
貿易の現状は、概要として、輸出額が増加傾向にあるが、輸入額も増加傾向にある。
貿易の問題点としては、通商政策の問題、通商関税の問題、通商規制の問題などがある。
通商政策の問題としては、保護主義的政策と開拓主義的政策の問題がある。
通商規制の問題としては、通商規制の問題、通商規制の問題、通商規制の問題などがある。

と主張し現政権に抗議する知識を有したるが故に、越浦は當然の結果を達せし和平の決を逃避するものである。ヨーロッパ報に事件の真相を明確に記載する権利ありと感心の日本代表部は總意を以て前回の決を改めて下すべき文書を作成して證明するのである。そこで日本代表部は總意を以て前回の決を改めて下すべき文書を作成して證明するのである。そこで日本代表部は總意を以て前回の決を改めて下すべき文書を作成して證明するのである。そこで日本代表部は總意を以て前回の決を改めて下すべき文書を作成して證明するのである。

メルカード権利譲を度し サントス、メルカード一ノ番地 サントスにてお譲りしす御手 留市バロンデブラット街 番市(新垣總)電話二一一八九 聖市ビネー路八六番街 サントス、メルカード内日

The image shows a vertical column of Japanese text from a historical newspaper. The main headline reads '即日接客' (Accepting patients immediately). Below it, a large section is dedicated to a medical advertisement for Dr. Y. Takeda. The text describes his services as a physician and surgeon, mentioning his education at the University of Cambridge and his practice in Campos Salles. It also includes details about his fees and the availability of a room for patients. The entire page is filled with dense Japanese characters.

東京會館
丸川八時島興
米國醫學士伊藤庄吉 診療
聖市コンヂ・ヂ・
サルゼダス街二〇番
(舊山田醫院)

アフリカ雑誌
ケープ・タウンより
本日 ありぞさんご
サントス HOLLOWAY THE OLD
右代通店の外殻船切符
無料荷取致します
トス駐在員

The image contains several illustrations. On the left, there is a detailed drawing of a lantern with a chain and a handle. Next to it is a small illustration of a person's head. Below these are two larger illustrations of insect traps. The first trap on the right has a cylindrical base and a funnel-shaped top with a screen. The second trap below it has a similar design but with a different base. To the right of the traps, there is a vertical column of Japanese text.

新 俗 田

現代名句評釋(七)

○東京 鈴木花簾

海の上に月よもすがら密詠
此句は海の上に月よもすがら密詠

あるといふので珍らしい。日暮れ方出た月が明け方に没する

迄始終海の上に懸つて居たと云ふのである。盆踊としてゐる

場所は小さく畫面の片隅に描かれて居つて、それを圓んでゐる。

大きな海原並にその中天にある月がその繪の廣大なる部分を領してゐるやうな氣がする。

○東京 池内内けし 宇治川に映れる山の薄紅葉

宇治川の水のきれいなところへ山全体が映づてゐる。全体とは云ひずとも感づきり映つてゐる。

其山のところの薄紅葉さへも映つてゐる。静か澄んだ景色が映れる山の薄紅葉といふ巧みな叙法でよく説はれてゐる。

ただ必ずしも宇治川でなくとも川に薄紅葉が映つてゐるといふ感ぜしめる。畫の間かうけたま

しにしてあつた筆を静かに下ろしたといふ景色であらう。何處にも特に目立つた此句の山といふやうなものはない。而かも此の句を説する時に吾等は上品を

静かな此の句によつて現はされたる情景の主人公となり得るやうに導かれる。其の下ろした筆にうつる光影も確かに、静かに秋の夕方を楽しむ事が出来る

月雲ぬけぬしきり鉢叩 月雲ぬけぬしきり鉢叩

今まで黙つてゐた月に雲がかかるつて來た。そのへりが月明るい月はつき月であるが、極めて陳腐な題材であるが、

ただ其月がよもすがら海の上にあらといふので珍らしい。日暮れ方出た月が明け方に没する

迄始終海の上に懸つて居たと云ふのである。盆踊としてゐる場所は小さく畫面の片隅に描かれて居つて、それを圓んでゐる大きな海原並にその中天にある月がその繪の廣大なる部分を領してゐるやうな氣がする。

○東京 中村秀好

木村圭石
さういふ空の下に鉢叩がナンチ
ンとさびしく小さな聲で鳴いて
ゐるといふのである。極めて繊
細なところに、又極めて太い線
が交錯してゐて、前のやうな光
景が大變よく表へる。「月雲」
といつた點なども、大陸で而かも
「月の雲」といふ感じよりも
この場合いゝ結果をもたらして
ゐると思ふ。

○山城 内田暮情
この虫の四たび／＼の鉢撥れり
この句は鉢虫の音色を詠んだ
ものである。通俗に鉢虫は七響
つゝけて鳴くのが一番よいとさ
れてゐる。しかしだっていは五
聲つゝけて鳴くやうである。因
ひといふことは、あまり豊かくも
豊かくもなし、一貫よい調子を
なしてゐたものであると思ふ。此
句の調子も鉢虫の音色の調子
をそのままに聞くやうに、自然
に快い。技巧の上にも立派に成
功してゐる。

みづほ君の句に「鉢叩いまは
三度叩きけり」と官のもあり甚
他にも數字で詠じた句がある。
かかる歌風は風景寫ることであつ
て理想派の諸君などからは美殺
されるかも知れない。固より寫
生から見ても優れたものである
計数は文藝ではない。しかし静
かに物の數を讀むところにも亦
寫生の消息は無いでもない。固
よりそれに伴はふ感情が無けれ
ばならぬ。是等の句も虫の鳴く
音を數へながら、いま聞く虫が

四たび／＼の餘を振る、餘叩が今度九つ叩くと、さう感ずるところに、虫を聞きますとして来る其人の情緒が想像されるのである。

○熊本 大野まゆう
揚舟とならべる墓や島掃除
作者は長崎縣五島に住つてゐる。さういふ所ではこの句に詠まれてある通り、墓場のそばに舟が揚げてあつたりして、墓は舟も手掛けられる。からい上淋しい荒れた墓場が想像される。

然したま／＼お盆が來てさういふ墓場も綺麗に掃除されて香華なども手掛けられる。からい上情景を捉へて句にしたことは親しくこの島に住つて見て初めて目に映る景色である

The image shows a horizontal newspaper clipping from a Japanese-language publication in São Paulo. It features several business advertisements in Japanese script. From left to right, the visible text includes:

- PHARMACIA IRIS** (Iris Pharmacy) located at Rua 11 de Agosto, 72 - Telephone, 2-4092 - S. Paulo.
- PENSÃO FUJIYA** (Fujiya Hotel) located in São Paulo (育物市場前).
- DENTISTA RUA LIVRE, 6** (Dentist on Rua Livre, 6) located in São Paulo (サンパウロ市).
- 中須薬局** (Chuo Pharmacy) located in São Paulo (サンパウロ市).
- 子菓御 西中菓子店** (Kisei Confectionery) located in São Paulo (サンパウロ市).

Other smaller text elements include:
ルイス・ガマ街四二
ノ・練リ・ンス市
午前九時より
午後八時まで
聖市一ツレ横六
(サンパウロ市)
歯科
山岡
浅倉春一
R. XAVIER DE TOLEDO, 8
34. AND. APPTO. 12
TEL. 4-3691 S. PAULO
診療一呂午後一時半至六時
御旅館 其の他
御料理 井物大麺
富士屋旅館
聖市(育物市場前)
バーンブラ街二七
志村已代治
護士ジョアキン・シルバ・ブ
護士カルロス・デ・モラエス
翻譯と法律事務
イリス薬局
杉山英雄
（渡邊鉄器店向ひ）
一流醫家より
定評ある
CAIXA, 2975
聖市デレタ街七番三階三號室
宣誓公證翻譯人
法規事務專任
に就特許等の手續、一歸
國並に經濟事情調査等々
中團の設立登記款の編成、一歸
業組合各種會社、一歸
證翻譯、產業

「死蟲種製造所」なる論説を讀
京都高等蠶業學

開心を持つべきは當然である。殊に之れを營利事業として經營せんとする場合に於て然りである。

置種の生産費と云ふ事は、一國の社會状勢、經濟狀態を異にする事に依り、自から相違を生ずべく、且つ又營利事業的の置種製造に於ける生産費と然らざる場合に於ける生産費とに依つても多少の相違は免れない。故に玆では其の詳述が目的ではない。日本に於ける營利事業として、經営されつゝある置種の生産費を御目にかけ御参考に供するに止めることにする。

結婚苦の
百年後の
英國文

This image shows a horizontal strip of a Japanese-language newspaper from 'O JORNAL'. It contains several advertisements:

- Y. KINJO CIRURGIAO DENTISTA** (Av. Condessa São Joaquim, 26, TELEPH. 7-3884 - S. PAULO)
- CLINICA DENTARIA** (Rua C. de Sarzedas, 10 - Tel. 2-3029)
- 院 醫 科 歯 郎 市 真 上 村** (十街スダービルサ・デ・デンコ市聖番九二〇三・二 話電)
- タネモノハ** (トヨシ)
- Dentista BIRIGUY Villa Nipolandia** (コントラスト著者定)
- 横濱外語** (十九日ナントス著者定)

The right side of the image contains Japanese text and a small portrait of a man.

Rua do Carmo, 57 — São Paulo

OHARA, IRMÃO & CIA.

Telephone, 4-2831 — End. Tel. "OHARA"

RUA PAULA SOUZA, 46-B S. PAULO

支店
農產物仲買
食糧品卸賣

支店
農產物仲買
製米工場

本店
農產物仲買
製米、精棉、
珈琲精選工場

營業科目

内外品雜貨商
農具、農作用藥品
農產物委託販賣

S/A Cia de Productos Nippo-Brasileira
RUA BUTANTAN N. 2
PINHEIROS -- S. PAULO
TELEPHONE 7-5858

支拂條件

アレマン 病院
インスナット・パウリスカ病院

用達

藤井平
横溝浩
坂藏
龟藏

九千アルケーレス
アルケーレスに對し參百ミルより四百九十ミルまで

ノロエステ線ノーバニボニア驛よりルツサンビーラ驛兩
區域內

三ヶ年賦 第一回十分ノ四、第二回十分ノ三、第三回十分
ノ三(但し年一割利子付)

右の土地を好條件で分譲致しますから御希望の方は多少に
拘らず御購入下されんことを御願ひ致します

事務所 アラサツーベ驛(保坂旅館内)

地主場所

土地分讓

Companhia Agrícola Francisco Schmidt

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XIX

São Paulo - Quinta-feira, 2 de Março de 1933

Num. 822

NIPPAK SHIMBUN

Diretor-Proprietário:

SACKI M' JRA

Redactor da pagina brasileira: José Solé

Redacção: Administração e Oficinas:
Rue da Liberdade, 144-A e 146
Caixa Postal, 375

Telephone 2-3926

Endereço Telegráfico: "Nippak"
SÃO PAULO - Brasil

ASSIGNATURAS

Para o Brasil

Por anno 30\$000
Por semestre 16\$000
Número aviso \$500
Para o Exterior 60\$000

Annuncios

Temos à disposição dos interessados uma tabela completa de preços para anuncios nesta folha. Telephone 2-3926

Balança comercial do Japão no mez de janeiro

A exportação foi no valor de 107.000.000 de yens, sendo 66.000.000 de yens o excesso da importação sobre a exportação. Esse algarismo comparado com o mesmo de igual período do anno passado, accusou um aumento de cerca de 50% no total da exportação e importação, bem como na super-importação. A exportação, de fio de seda natural, durante o mez, accusou um crescimento de 9.000.000 de yens, ao passo que experimentaram os seguintes aumentos respectivamente, comparado com o igual período do anno passado as seguintes mercadorias:

Tecidos de algodão, aumento de 16.000.000 de yens; tecidos de seda artificial, aumento de 1.800.000 yens; tecidos de seda natural, aumento de 1.800.000 de yens; farinha de trigo, aumento de 2.000.000 de yens; artigos de tricot, aumento de 1.500.000 de yens.

A importação accusou os seguintes aumentos:

Algodão, 34.000.000 de yens; lã, 5.000.000 de yens; feijões, 2.700.000 de yens; ferros, 2.700.000 de yens; máquinas diversas, 2.000.000 de yens.

O valor das exportações é importações do Japão, durante o anno de 1932, para os principais países estrangeiros é o seguinte:

America do Norte, exportação: 445.000.000; importação, 509.000.000; India, exportação: India, exportação: 192.000.000; importação, 117.000.000; Ilhas do Sul, exportação, 159.000.000; importação, 96.000.000; Australia, exportação, 38.000.000; importação, 138.000.000; Inglaterra, exportação, 59.000.000; importação, 78.000.000.

Foi adiada a 1.a excursão brasileira ao Japão

Foi adiada para 15 de abril proximo, a excursão brasileira que se está organizando sob os auspícios do governo provisório e que deveria deixar o porto inicial do Rio de Janeiro a 2 de março atendendo aos interesses do Estado, que devido à exiguidade do tempo, não puderam fazer a organização dos mostruários dos produtos destinados a serem expostos nos centros manufatureiros do Japão.

Os srs. Octavio Guinle, A. J. Souza e o director geral da Companhia Osaka Shoshen Kaisha resolveram transferir a data da primeira excursão brasileira ao Japão, para que esta fosse realizada com todo brilho.

Noticias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornais)

Preparando os emigrantes

Importantes reformas

Ainda trattado com a Russia

O departamento do Comercio Exterior, de Tokio, informou em recente comunicado que, o novo Estado da Mandchúria, as Ilhas dos Mares do Sul e as Repúblicas Sul-Americanas, mostram-se dispostas a facilitar a imigração japoneza. Por este motivo estabelecer-se-á, em Nagasaki, uma escola ou repartição especial destinada a auxiliar as pessoas que desejarem ganhar a vida no estrangeiro. O projectado estabelecimento fornecerá informações completas aos interessados sobre os países escolhidos para se instarem. A imigração japoneza para os mares do sul aumentou consideravelmente, nestes últimos anos, sendo preferidos os países dessa região aos da America do Sul. No decorrer do anno passado embarcaram para mais de 5 mil japonezes para as Ilhas Philippinas, Sumatra, Java, Borneo outras ilhas. A intensificação da corrente emigração para essas colônias e a queda das cotações do "yen" estimularam enormemente o comercio da exportação para os referidos países.

O total dos japonezes que emigraram, durante o anno passado, eleva-se a 25 mil, dirigindo-se a maior parte para o Brasil. O Departamento dos Negocios de Ultra-Mar está dando execução a um plano previamente organizado, cujo objectivo consiste em embarcar, durante o anno corrente, mais de 25 mil emigrantes exclusivamente para aquele paiz.

O novo plano visa abolir inteiramente o sistema de serviço militar de um anno, que vinha sendo muito criticado por não convir ás necessidades da nação.

Os candidatos a oficial não commissionados serão obrigados a prestar um exame especial depois de tres meses de instrução. Os que forem aprovados, poderão continuar o curso, enquanto os reprovados serão encaminhados ás fileiras afim de servirem como soldados durante um anno e meio.

Os exames são muito severos e visam aproveitar os candidatos realmente habilitados para o importante cargo.

TOKIO, 23 — Os meios diplomáticos japonezes, embora desmintam as notícias divulgadas a respeito da possibilidade de conclusão de um pacto de não agressão com a Russia, por ocasião da chegada a esta capital do novo embaixador do governo de Moscou, deixam transparecer que prosseguem as negociações estabelecidas para a proxima desiguação oficial dos membros da Comissão mixta encarregados da delimitação de fronteiras dos territórios contíguos dos dois países.

Segundo se adianta, a comissão compreenderá representantes do Japão, da "Russia" e do Mandchú Koku.

Serão mantidas as relações com as grandes potências

Affirma-se nos círculos em geral bem informados, que o governo japonês a despeito da decisão que tomou em torno da retirada do Japão da Liga das Nações, procurará, por todos os meios, manter uma política conciliatória com os Estados Unidos, Inglaterra, França, Itália, Alemanha e Russia.

Tem-se como certo que o Japão abandonará o Instituto de Genebra nos primeiros dias de março, o que implicará na sua retirada de todas as reuniões internacionais que se realizam sob os auspícios dessa organização, entre as quais a Conferência do Desarmamento.

O Conflicto Sino-Japonez

Os delegados japonezes deixaram, definitivamente, a Liga das Nações

O sr. Matsuoka, representando o Japão, em Genebra, ao ser aprovado pelos presentes, as recomendações do Relatório Lytton, leu o discurso abaixo e retirou-se do recinto da assembleia:

"A delegação japoneza e o governo japonês lamentam profundamente que o projecto de relatório da Comissão dos Dezenove tenha sido votado pela assembleia. O Japão é membro da Sociedade das Nações desde a fundação do instituto. Os nossos delegados à Conferência de Pariz, de 1919, tomaram parte na redação do pacto e sempre nos sentimos orgulhosos de colaborar com as nações dirigentes do mundo em um dos maiores empreendimentos destinados a unir a humanidade.

Foi sempre nosso maior e mais sincero desejo e, ao mesmo tempo, um indizível prazer, cooperar com os outros membros da Sociedade, para o bem da humanidade.

Deploro profundamente a situação em que nos encontramos, porque estou persuadido de que é a mesma idéa e o mesmo desejo de vir estabelecer uma paz durável que nos inspira a todos nas deliberações como na acção.

O mundo inteiro sabe que a política do Japão é essencialmente inspirada no sincero desejo de garantir a paz do mundo inteiro. O Japão, todavia, encontrou-se na impossibilidade de aceitar o relatório apresentado á assembleia e esforçou-se em particular para demonstrar que as recomendações que esse documento contém não podem ser consideradas como susceptíveis de assegurar a paz nessa parte do mundo.

O governo japonês vê-se agora obrigado a chegar a esta conclu-

Preparativos para commemorar o 25.º anno da immigração para o Brasil

Um convite aos sportistas japonezes

Os japonezes de São Paulo, preparam-se para commemorar, em junho proximo, o 25.º aniversario do inicio da immigração japoneza para o Brasil.

O dr. Iwataro Uchiyama, consul do Japão, entrevistado, explicou a maneira como são encaminhados os colonos para as fazendas do interior, mal desembarcam no porto de Santos, directamente controlados pelo Kaihai Kogyo Kaisha, que se incumbe de obter as colocações. Exaltou a iniciativa dos seus patrícios de commemorarem, festivamente, o 25.º aniversario do inicio da immigração para o Brasil, acrescentando:

"E' intenção dos japonezes, aqui radicados, contribuirem, na medida de suas forças, para o desenvolvimento económico da terra que os acolhe com tanta simpatia. Elles só pensam em prestar ao programa traçado pelo governo do Brasil, quanto ao desenvolvimento da polycultura.

Para associar-se as festividades que serão realizadas foram convidados, pelo governo brasileiro, os atletas japonezes, os quais responderam nos termos do telegramma abaixo:

TOKIO, (U. P.) — A Associação Japonesa de Athletas Amadores recebeu um convite no sentido de fazer-se representar na comemoração do 25.º aniversario da instalação da primeira colônia de imigrantes nipponicos no Brasil, que serão realizadas no correr deste anno naquele paiz sul-americano. Essas festas, segundo se diz, terão lugar no Rio de Janeiro ou São Paulo.

O convite foi recebido por intermedio do Ministerio das Rela-

cões Exteriores, tendo sido imediatamente encaminhado á Associação Japoneza.

Diz-se que o governo brasileiro realizará um vasto programma de felicidades, tendo convidado outros paizes sul americanos a tomar parte nas cerimônias. Espera-se que o convite será aceito pela entidade maxima dos atletas amadores, que terá, assim, oportunidade de exhibir na America do Sul a nata do athletismo nacional.

Segundo cálculos feitos no Ministerio do Exterior, mais de 136.000 japonezes atravessaram os mares na direcção do Brasil nestes ultimos 25 annos. Esses elementos estarão, por certo, grandemente interessados na visita dos seus compatriotas, principalmente depois do exito alcançado pelos mesmos nos Jogos olympicos de Los Angeles.

O professor Tadaoki Yamamoto, vice-presidente da Associação Japoneza, declarou que está plenamente satisfeito com a recepção do convite brasileiro e fará o que estiver ao seu alcance para corresponder a gentileza das autoridades daquela paiz amigo.

Acrescentou que elle espera poder embarcar a representação sportiva nipponica em meados de Junho proximo. Antes de Outubro ella já estará de regresso ao Japão. Da delegação fariam parte inumeros estudantes atletas. Terminou dizendo que quando se encontrava em Los Angeles, durante a disputa dos Jogos Olympicos, recebeu uma serie de convites para visitar a America do Sul. Esses convites, no entanto não puderam ser aceitos antes pela absoluta falta de tempo.

As operações belicas

Ilimitar-se-ão ao Norte chinez

Embora os chinezes propalem o contrario, o Japão não tem nenhum interesse em estender as operações militares para o sul da grande muralha.

Essa mesma informação dará o governo nipponico, num comunicado que vai entregar, dentro de dois dias, aos representantes diplomáticos estrangeiros em Tokio, e principalmente aos que representam as nações que têm interesses particulares no Extremo Oriente.

Esse comunicado dirá, ao mesmo tempo, que o Japão está pronto a retirar a sua guarnição militar de Chang-Hai-Kuan, se a China der garantias suficientes de que não atacará a cidade, e lembrará que o Japão seria obrigado a enviar reforços, se as tropas chinezes atacassem as guarnições nipponicas de Tien-Tsin ou se massacrasssem residentes japo-neses.

Na regiao de Jehol

Pei-Piao e Kailu foram tomadas

Tendo sido iniciada a offensiva das forças japo-nesas na regiao de Jehol, travaram-se violentos encontros entre as tropas inimigas tendo os japo-neses tomado as cidades de Pei-Piao e Kailu.

Essa notícia foi oficialmente confirmada, não tendo, porém, sido confirmada a cahida em mãos dos japo-neses da cidade de Chao-Yang, na mesma província de Jehol.

Impressos?

Procure a

TYP. "NIPPAK"

Rua Liberdade, 146

São Paulo — — —

Uma zona neutra

O Japão não tem a intenção de retirar os seus representantes da China, mas comunicará ás missões diplomáticas estrangeiras o firme propósito em que se acha de não se deixar arrastar á guerra no sul da grande muralha. Na opinião do gabinete, a criação de uma zona neutra nos dois lados da muralha limitaria as hostilidades ao territorio chines do norte.

A esquadra deve estar prompta para qualquer eventualidade

Em uma de suas ultimas edições o "Nich Nich" noticia que o sr. Osumi, ministro da Marinha, mandou dar intruções aos comandantes das bases navaes japo-nesas para que a Armada nacional esteja preparada para qualquer emergencia.

O referido jornal interpreta a medida do seguinte modo: no caso da pacificação da Mandchuria depender de uma intervenção japo-nesa pelo Pacifico, a Armada estará em primeira linha para a execução da politica nacional; quanto a retirada do Japão da Sociedade das Nações nada tenha com a continuidade da retenção do mandato sobre as Ilhas, a Armada deve estar preparada para manter as Ilhas, seja qual for a acção da Sociedade, ou combinação de potencias favoraveis ao emprego da força, a Armada deve estar preparada para cooperar com o exercito de Jehol; no caso de uma agitação anti-japo-nesa nos portos chinezes, a Armada estará prompta a cooperar com as demais potencias para a protecção dos interesses nacionais; apesar do Japão não esperar o bloqueio economico, a Armada deverá estar preparada para salvaguardar a liberdade dos mares.